

書道パフォーマンスにおける書表現と 運筆に関する指導

——大会出演実践事例を中心に——

森 哲 之

はじめに

書の表現活動として、書道パフォーマンスは、高等学校の部活動をはじめとする学校現場や一般でも繰り広げられ、メディアにも取り上げられる。さまざまなイベントにおいて華やかな催しが各所で開催され、各種団体による書道パフォーマンス大会もあり、それらに向けた取り組みが実践されている。昨今の書道パフォーマンスは、書道や伝統文化の活性化の面においても有意義であり、書の一つの表現手段として定着している。

本稿では、「2023書道パフォーマンス・カーター大会 in こうぬ」に初出場した広島文教大学書道部学生の事例を中心に、書表現と運筆との関わりを検討する。また、書道パフォーマンスの大会出場に際し、他チームと競い合う要素が加わった場合に、自由な環境下で披露する書道パフォーマンスとの相違点を見出し、書道パフォーマンスの本来的、普遍的なあり方を捉えていく。

1. 書道パフォーマンスの特性

書道パフォーマンスは、完成された書作品を鑑賞の対象とすることに加え、その書作品形成における制作過程や運筆、技法、書き振りなどの身体表現を見せることにより、芸術として、伝統文化としての書道のよさを可視化できる利点がある。幅広い鑑賞者に制作意図が伝わりやすく、エンターテインメントとして純粋に楽しめる。

書道パフォーマンスには、表現に特別な制約はない。書道のパフォーマンス、書道によるパフォーマンス、書道を取り入れたパフォーマンス、書道を加えたパフォーマンスなど、少しずつニュアンスは異なるが、基本的には自由である。個々

の大会においては、個別のルール等がある。しかしながら、演劇が主、歌唱が主、踊りが主、演出が主となり過ぎると、書道パフォーマンスの意義や価値がやや薄らぐ可能性はある。書道を基本的な主軸とすることが必要であろう。そのためには、書の古典の臨書により書の理解を深めることが前提となり、身体表現とリンクさせていくことが肝要である。また、書く姿の必然性は理に適って美しいものである。演出として見せるための動きではなく、字姿と運筆の一貫性を重視すべきであろう。このようなことをベースに、新たな表現の可能性を探りながら、書道パフォーマンスの実践を進めていった。

2. 書道パフォーマンス大会出演の事例

(1) 「2023書道パフォーマンス・カーター大会 in こうぬ」出演の概要

2023年11月18日、三次市甲奴町のジミー・カーターシビックセンター ピースベルホールにおいて、「2023書道パフォーマンス・カーター大会 in こうぬ」が開催され、本学書道部が初応募にて選出され出演した。結果は、「ジミー・カーター平和大賞」（最優秀賞・大学の部第一席）であった。加えて、書道部員（教育学科中等教育専攻1年）が「個人特別賞」を受賞し表彰された。

本大会は、事前審査を受けた上で、本学書道部の書道パフォーマンスの質や過去1年以内の実績（広島国際会議場での書道パフォーマンス動画ほか、前年度の第29回ひろしまトラックまつりにおける書道パフォーマンス、フタバ図書TSUTAYA GIGA 上安店における書道パフォーマンス、「Colorful Heart Festival」における書道パフォーマンス等の取り組み）が認められ選考に至り、「出場決定通知書」が届いた。高等学校の部は8校、大学の部では書道学科のある大学と本学の2大学が選出された。

縦3m×横6mの裏打ちされた黒色の巨大な人絹に、オリジナルの言葉を考え、楽曲を用い書道パフォーマンスを行った。様々な色の絵の具を効果的に配色し、Mrs. GREEN APPLE「StaRt」と関ジャニ∞「がむしゃら行進曲」の楽曲を用いて書道パフォーマンスを披露し、身体全体を使ってダイナミックに書き上げた。

本学書道部学生が出場に至るまでには、部活動を通して、事前の打ち合わせ、大掛かりな準備、練習等の指導に関わった。学生は時間を掛けて繰り返し練習を重ねてきた。貴重な発表の機会に恵まれ、参加者や主催者に大きなインパクトを残し、本学書道部学生が大きく活躍するものであった。

なお、「2024.1.5 祝 書道部が「書道パフォーマンス カーター大会 in こうぬ」で最優秀賞受賞！」（広島文教大学 web サイト）にフルバージョンの動画等の情報

が掲載されている。

(2) 言葉と作品構想

言葉や書表現、作品構成等は、書道部学生によるオリジナルの創作である。基本的な構想は、学生自らの発想を第一義に尊重している。撰文の想いや拘り、書表現、作品としてのイメージである。

構成メンバーも部員全員での取り組みを基本としつつ、個々の状況に応じた参画としている。高等学校時に書道パフォーマンスを経験している学生もいるが、大学で初めての学生も交えて取り組む。しかしながら、書の基礎基本となる古典臨書は、年度初めより共通して取り組み、技能差を縮める。個々に関心のある古典を臨書し作品化することを目標に書の分析力、技法等を高める。それぞれに臨書の基本が培われ、他の古典への応用が効く程になっていく。共通した古典のテーマで相互に進めることもある。

撰文は、次の通りである。

「輝」(大字書)

夢 志 追いかける日々 共に手を取り 顔晴ろう

今この瞬間が 未来への幕開けだ

一度きりの人生 煌めきの道を進み 心の底から叫べ

僕らは明日の 光 運命を彩り 咲かせよう僕らの花

(3) 書表現の工夫とレイアウトの検討

言葉の組み立てと共に、書表現をイメージしながら、学生それぞれが得意な書体・書風で構成も工夫し試書する。個々に関心ある古典の臨書を活用、応用して書の創作を試みるいい機会となる。個々の作品を持ち寄り、全体で協議し、方向性を定める。柔軟に変更や検討を加え、さらに、代表者が一貫性をもって総意を汲み取り全体を改めて試書する。基本的な書風の統一感、王羲之「蘭亭序」をある程度ベースにした。各箇所等の分担を決め、いざという時のために、相互にも書けるよう備える。また、全体観を大事にし、さまざまな展開の中で、書風の変化も適宜取り入れていった。個々が関心を持ち取り組んでいる書風の導入である。

(4) 大字の書表現と運筆

大字「輝」を一例として、3m×1.5m程度の特大の運筆表現となる。全体感との調和も踏まえつつ、担当学生が取り組んでいた顔真卿「祭姪文稿」の書風を加

味し組み立てた。大きさに応じて身体全体で表現し、自然で必然的な運筆になっているかを検証していった。毛筆の上下の動きや俯仰においては、筆や腕の高さ、移動位置を評価し、毛筆の開閉、筆圧の変化を必然性のある動きにした。連動して、膝、足腰、上半身、腕、手指の一連の関わりにおいても、屈伸や振幅が噛み合う自然なリズムを検討し、存在感や力感を増していった。また、筆圧を掛ける以上に、毛筆を引き上げ吊り穂先を駆使して、細線や転折、円転し方向転換していく複雑な運筆を追求した。最終画の終筆においては、高いところから筆圧を掛け踏み込み筆毛を開き、線に厚みが増すところから次第に筆を高く引き上げつつ捻れ、助走から紙面の外側に至るまで広く余韻を残すよう足運びにも考慮した。これらのことについては、他の箇所においても大きさに伴い基本的には同様に深めていった。

中央部「未来への幕開けだ」の書風の工夫については、担当学生が取り組む黄庭堅「松風閣詩巻」をベースに変化を付け組み立てていった。線質を臨書で深めつつ取り入れていった。「光」他、変化やポイントの起点となる表現の工夫については、配色ほか、個々が取り組む古典や「雲章書法字典」などを活用し調整した。

(5) 書表現の一環としての背景装飾等の工夫

人絹や紙などの背景の装飾と共に、書字の彩色においては、「平家納経」等の装飾経からもヒントを得る。毛筆の活用においては、水墨画の技法、墨象や抽象的な絵画等も参考にする。今回は、金色と淡いブルー系の墨痕のようなほとばしりを、毛筆にたっぷり含ませた上で、一気呵成に打ち付け銀河のようなイメージに配した。あくまで書表現との一貫性や調和を込めた。落款部の印章についても、押印の締め括りと共に自然な演出とした。

(6) 書作品としての完成度を求めて

書き味や色味、質感が確認できるよう試し書き用として、1 m×2 m 程の黒色の人絹が事前に送られてきた。それには、全体の調和と共に、字形や書表現等の最終確認を、個々の担当者が半紙等で徹底して迷いなく書けるよう練習した上で、ミニチュア版の作品として展示に値するレベルの仕上がり具合の完成度を求めさせるようにした。作品としての完成度を意識させ、自信を持って大作に臨める下地を再形成した。作品としての全体観の確認にもなり、相互のバランスを図りつつ、字形、配字、リズムの関係にも、客観的な視点で共通点や一貫性が醸成された。

その9倍の面積となる3 m×6 mの本番を想定した大字での練習は、それに見

合う比率での動きや勢い、速度感となる。必然性と一貫性に書表現の重要な要素がある。特に、筆の動きの高さや振幅のダイナミックさを強調し、字形の確かさと共に、あらゆる角度から自然な運筆動作の必然性を検証した。

本番実演の評価と課題については、観客との一体感、ダイナミックな展開、ユニークさ、インパクトには、大きな反響があったが、書作品としての完成度や運筆の必然性には改善すべき課題が認識できた。

3. 外部団体依頼イベントにおける書道パフォーマンス出演の事例

外部団体依頼による書道パフォーマンスの事例については、団体により千差万別であり、求められる内容も大きく異なる。

2023年7月21日、広島国際会議場・フェニックスホールにおいて、第33回日本臨床工学会のオープニングイベントとして、書道パフォーマンスを実施した例がある。言葉は、先方の意向で大会テーマなど「Peace for Innovation」「PEACE 無事 安心への新たな展望」の依頼者による希望であった。依頼者とイメージを共有し、GReeeeN「アカリ」、ONE OK ROCK「change」の楽曲に合わせて4m×6mの書道パフォーマンス、大会テーマ「臨活」の1m×2mの書道パフォーマンスを行った。華やかで活気があり、勢いがあるもので、学会が盛会となるような景気付けを意図した。純粹で若い感性、日本の伝統文化としての意味合いも含まれる。ある種の重み付け、高尚さという期待も込められている。書体・書風については、北魏の龍門造像記等を基調として組み立てた。アルファベットについては蘭亭序の運筆を共通項とした。この取り組みほか、先述した各種書道パフォーマンスの実績がその後の大会選考の評価に繋がった。

おわりに

書道パフォーマンスでは、書表現の創造性に加え、運筆の確かさを要する。本誌前号で取り上げた広島グリーンアリーナでの実践例（2019）は、演出家等プロ集団との関わりをもって、オリジナルの楽曲、歌唱、タップダンス、和太鼓、書道パフォーマンスの大掛かりなコラボレーションが実現した特殊な例であった。このように、展望としては、様々な表現分野とのセッションや演出技術の汎用など開拓の余地が多々あり、多様な領域の芸術や文化とのコラボレーションが考えられる。

学生は、等身大の今を生き、身近に感じられる題材で、同世代に呼応するとこ

ろを大事にしている。今後の展開として、言葉については文学的観点から、楽曲の面でも芸術として精査し、書表現は造形芸術として昇華させることも考えられる。運筆表現は、井上有一や沢村澄子など、書の造形面との一致を見せるものが参考になる。これらの制作シーンは、基本的には見せることを目的とするものではなく、通常の制作現場を示すものであるが、訴える力が大きい。

書作品としての完成度、熟達度、運筆の必然性が備わると、書道パフォーマンスの骨子が成立する。今回の動作や演出に関しては、見応えのある工夫や手拍子等、観客との一体感を重視した。一方的に見せることに止まらず、相互に呼応するパフォーマンスを目指した。大会に出場することによる利点は、最後までより良いものを目指そうとし、モチベーションが続くというところにある。鑑賞者側が受け取るものとして、共感する内容を必要とする。現在進行形で進化、発展している書道パフォーマンスは、現代の表現者の感覚により変化を来す。表現者が望む形を尊重しつつ、客観的なアドバイスを心掛ける。書道と他の芸術分野とのコラボレーションも検討しつつ、総合芸術としての方向性、相乗効果等を考え、書道としての追求の方向性を見失わないようにしたいものである。

参考文献・URL

- 森哲之「書道パフォーマンスにおける運筆と書表現—大学での実践と指導—」『文教國文學』第67号 2023.2
- 『書の古典と理論 改訂版』全国大学書道学会編 光村図書 2020
- 『国語科書写の理論と実践』全国大学書写書道教育学会編 萱原書房 2020
- 「雲章書法字典」アプリケーション（「云章书法字典」）Yu Liang 言語：簡体字中国語、繁体字中国語、英語
- 「e 国宝」（国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財）<https://emuseum.nich.go.jp>
- 「2024.1.5 祝 書道部が「書道パフォーマンス カーター大会 in こうぬ」で最優秀賞受賞！」（広島文教大学 web サイト）<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/report/event/25122/>
- 「2023.7.21 広島文教大学書道部パフォーマンス @広島国際会議場」（広島文教大学 web サイト）https://www.youtube.com/watch?v=dXvimMuA_V0
- 「2019.11.8 広島グリーンアリーナにおける書道パフォーマンス」（広島文教大学 web サイト）<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/report/event/12087/>
- 「広島文教大学 書道パフォーマンス_広島グリーンアリーナ_5:55~書道部_OSEAL2019」<https://www.youtube.com/watch?v=HNbHo4rfWAs&t=38s>
- 「2022.12.3 フタバ図書 TSUTAYA GIGA 上安店における書道パフォーマンス」（広島文教大学 web サイト）<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/report/event/20563/>
- Facebook「Colorful Heart Festival」（広島青年会議所）<https://www.facebook.com/people/Colorful-Heart-Festival/100083164456928/>

「【第29回ひろしまトラックまつり】ダイジェスト映像（2022.10.9）」（公益社団法人広島県トラック協会）<https://www.youtube.com/watch?v=qcLW0S8079Y>
井上有一「書の解放」<https://www.youtube.com/watch?v=F0a0qXYhO6I>
「日本書法大師：井上有一」<https://www.youtube.com/watch?v=mD2wo1K6mIY>
「井上有一ー金沢21世紀美術館」https://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=45&d=1727
「沢村澄子 公開制作 新潟絵屋 2019.4.21 Calligraphy performance by SAWAMURA Sumiko at Niigata Eya」<https://www.youtube.com/watch?v=H6QkzGbxDAc>
「沢村澄子 石神の丘のうた」https://www.youtube.com/watch?v=PLTzbF_Bbs8
(本学教授)